第 34 回交流会　「鳥いっぱいの谷と海 2023」

2023 年 2 月 5 日(日)
講師:別府史朗氏
参加者:★早朝谷あるきコースから参加 5 名、★のんびり漁港コースから参加 6 名　合計 11 名

2021年、2022年とコロナウイルスの為に出来なかったので、どんな鳥に出会えるかすごく楽しみで、何日も前から天気予報を見て一喜一憂しながら過ごしていましたが、当日は快晴～曇りと天候に恵まれ、冬日の小網代を堪能することが出来ました。

早朝谷歩きコースは、8：00水道広場集合なのでいつもより早起きし7：00に家を出てベイシアに駐車。水道広場への坂道で早速ヒヨドリやガビチョウとの出会いが始まりました。水道広場で早朝組が集合、探鳥会チェックリストを配り、頭上のハゼノキにヤマガラを観察して出発。特に右岸の斜面はナラ枯れなのか枯れて伐採され以前の面影は無い。鳥の姿は少なくヒヨドリやメジロなどで、“真ん中広場”に来てアオジの姿がちらほらし始めました。アオジは地上で落ちた実などを食べるので、枯草に隠れてなかなかその姿を見られない。運よく木の枝などに止まると茶色の体に緑のおなかと黒っぽい顔を見ることが出来る。望遠鏡で見るとなかなかかわいい顔をしている。

“やなぎテラス”から“えのきテラス”までは冬枯れのアシ原の中を動く鳥を探しながらの移動でした。“眺望テラス”でホオジロをゆっくり観察し、宮前の峠への登りで湾に浮かぶマガモを観察して漁港へ。

漁港でのんびり漁港コースと合流し、一休み。漁港では、対岸の森にアオサギとカワウ、ウミネコの飛翔、湾奥に40羽以上のマガモ、船着き場のスロープにイソシギとオオバン、上空にミサゴの雄姿を観察。

漁港を出発し“えのきテラス”で昼食。ここでは、カワセミやモズを観察。

“やなぎテラス”に向けて出発し、歩道の真横のアシの中を移動するウグイス、動きがゆっくりしていたため皆が見ることが出来ました。“やなぎテラス”では、津波の避難路が整備されることやジャヤナギ林の拡大整備などいろいろな小網代の森話をして、出発。

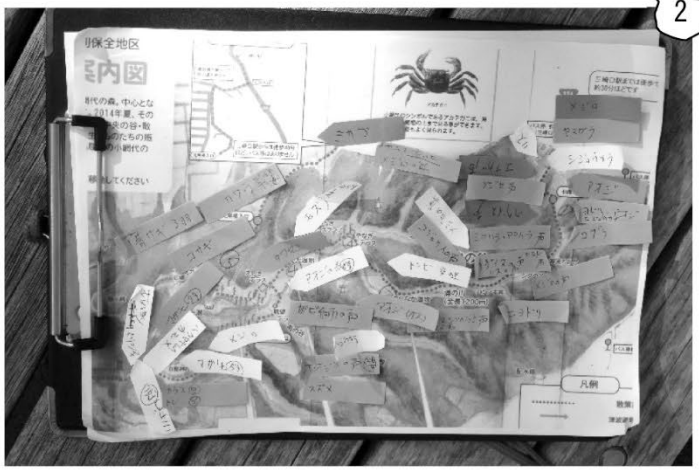
鳥の姿は少ないもののアオジやシジュウカラ、メジロなどを見ながら自然観察。水道広場で鳥合わせをし、一人一人感想を述べて終了しました。

1

記　別府史朗

森に入る前から鳥の声が聞こえる（コジュケイ、シジュウカラ、メジロ等）。リスが餌を探し回り、カラスが空を飛ぶ。朝8時水道広場集合組が集まった所で、さあ鳥の声のする方へ双眼鏡を向けて鳥の観察始まりです。片手に双眼鏡を持ち、耳を澄ましてソーと階段を下り、途中立ち止まりながら周りを見回します。鳥の声を聞いても何だか分からない私ですが、心強いのは講師の別府さんと、鳥に詳しいKさんが一緒にいてくれたこと、声を聞き姿を見つけると、鳥の居る場所と名前を教えてくれます、私でも双眼鏡を向けて姿を見ることができました。Kさんは鳴き声の違いをその場で教えてくれました。ごめんなさい、今はもう忘れてしまいました。

2



今回はこあじろの森の地図に見かけた鳥の名前を付箋に書いて貼っていく事を思いつきました。鳥の観察会が終わって、鳥合わせの時に地図を見てビックリ付箋がいっぱい貼ってあり、何が何だか解らない状態です。同じものもいっぱい貼ってあります、森全体に鳥の声が響いて、海辺にも鳥の姿を見る事が出来た証拠ですね!!

地図を眺めていたら、色々と反省点もいっぱいありましたが、心は満ぷくになって一言、
「ごちそうさまでした❣」

今回観察する事が出来たのは以下の通りです。（声が聞こえた鳥も含みます。）
コジュケイ、シジユウカラ、メジロ、アオジ、ヒヨドリ、ホオジロ、シロハラ、トビ、
ヤマガラ、コゲラ、ハシブトカラス、ハシボソカラス、スズメ、ウグイス、
カワセミ、モズ、ガビチョウ、ツグミ、エナガ（声）、
マガモ、アオサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、ウミネコ、ミサゴ、ハクセキレイ、カワウ
計26種
＊コジュケイとガビチョウは外来種で数には入れないそうです。

その他に見つけたもの
浦の川河口でアライグマの足跡、タイワンリス（クリハラリス）の姿と鳴き声
カワウの崖の巣（フンで白い）、ヒモミノガの幼虫

ところで、人によってコジュケイの鳴き声は～カアチャンコワイ～と聴こえるそうですよ。（笑い）

記　三本保子

3

マガモ

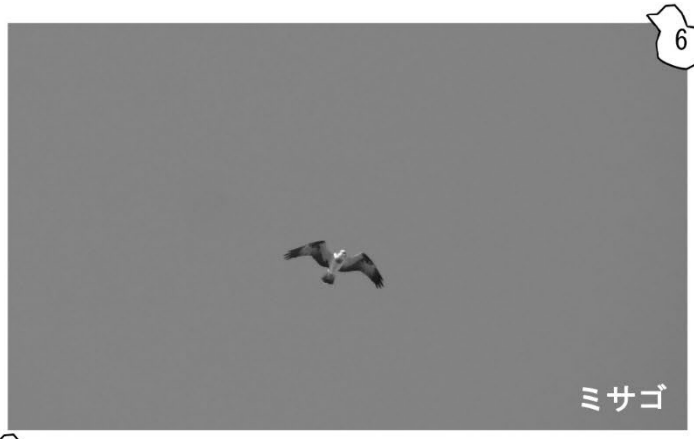
4

モズ

写真　1,3,4,8：別府史朗　　6,9：T.Ishizuka　　2,5,7,10：浪本晴美

真冬のキリっとした空気、というよりは「春がもうすぐそこまで」といった穏やかな日。足元にはヒメウズが咲き始めています。

5


6
ミサゴ

真っ青な空に弧を描くトビまで清々しい。と思ったら、ミサゴ！

7

毎年、下見も含めて参加させてもらっているおかげで、鳥の種類はだいぶわかるようになりました。が、季節によって、日によって会える鳥、会えない鳥があって、そこがまた醍醐味でもあります。

今回は講師の別府さんが小網代で見られる鳥がほぼ網羅された探鳥会チェックリストをバージョンアップして、参加者に配ってくださいました。

また、小網代の森や別府さんのメインフィールドである光の丘水辺公園で撮影した鳥の写真（40枚くらいあったでしょうか。）をプリント・パウチして持参し、お弁当後のえのきテラスで詳しく解説してくださいました。

8
ヤマガラ

「さっきいたよね～」「みたみた」「あー、これに会いたい！」「えっ、こんなのいるの？」と、にぎやかなリアクション。

9

10

プロミナでくっきりはっきり見せていただくのも年に１回の贅沢です。また来年もよろしくお願いします。今回参加できなかったみなさんもぜひご参加ください。

記　浪本晴美

ご参加の皆さまからメッセージをいただきました

いい天気に恵まれまして、また、皆さん気持ちよく、楽しそうに探鳥会できたので、鳥は今ひとつという気がするんですけれど、楽しい探鳥会になったと思いますので、いろいろありがとうございました。 S.B

今日はどうもありがとうございました。ウグイスの地鳴きのところ、鳴いている姿を見るのが実は初めてだったので、あれにちょっと感動しました。本当にありがとうございました。 T.I

今日は暖かくて、本当に気持ちのよいお日さまでした。皆さんとのんびり歩いただけで本当に気持ちがすっきりしました。ありがとうございました。 Ka.S

今日は久しぶり、2 カ月ぶりで小網代に来ました。しばらく表を歩いたことがなかったんですけど、今日は野外の散歩を満喫できました。ありがとうございました。 S.T

今日はお世話になりました。小網代に復活でした。嬉しかったです。ウグイスの地鳴き、あんなに大きな声で、臆病な鳥だと思っていたのが鳴いているので驚きました。あんまり私は鳥はわからなかったんですけど、それでも楽しく歩けました。ありがとうございました。 Y.N

ありがとうございました。久しぶりに小網代に来て、今日は暖かで、癒されて帰ることができます。鳥については、本当に知識がなくて恥ずかしい限りなんですけど、いろいろ教えて頂いて、あぁこんなに鳥ってきれいなんだなと思って、よかったです。ありがとうございました。 Ke.S

今日はいろいろ鳥を見て楽しみましたが、エナガとヤマガラをしっかり見ていないので、少し寂しいです。会いたかったぁ。 A.K

皆さん来てくれてありがとうございます。今日は、午前中風があって寒かったんですけども、午後は暖かくなって別府さんのいろんなお話が聞けたりでよかったと思います。 Y.M

今日はミサゴに 2 回も会えたので嬉しかったです。ありがとうございます。 H.N

歩くだけで精一杯、鳥見ていない気がします。情けなくて、先生には申し訳ない参加者でしたが、お昼休憩のエノキテラスで、素晴らしい写真をたくさん見せていただいて、すっかり鳥見の気分になりました。ありがとうございます。 M.H

今日はいろいろとありがとうございました。別府先生の解説と写真は、すごく楽しかったです。あと、実際鳥に会えまして、たくさん見ましてありがたかったです。今日は早起きしたんで眠たくなっちゃって、すみませんでした。またよろしくお願いいたします。 M.S

小網代を詩う

鳥を待つ

中井 由実

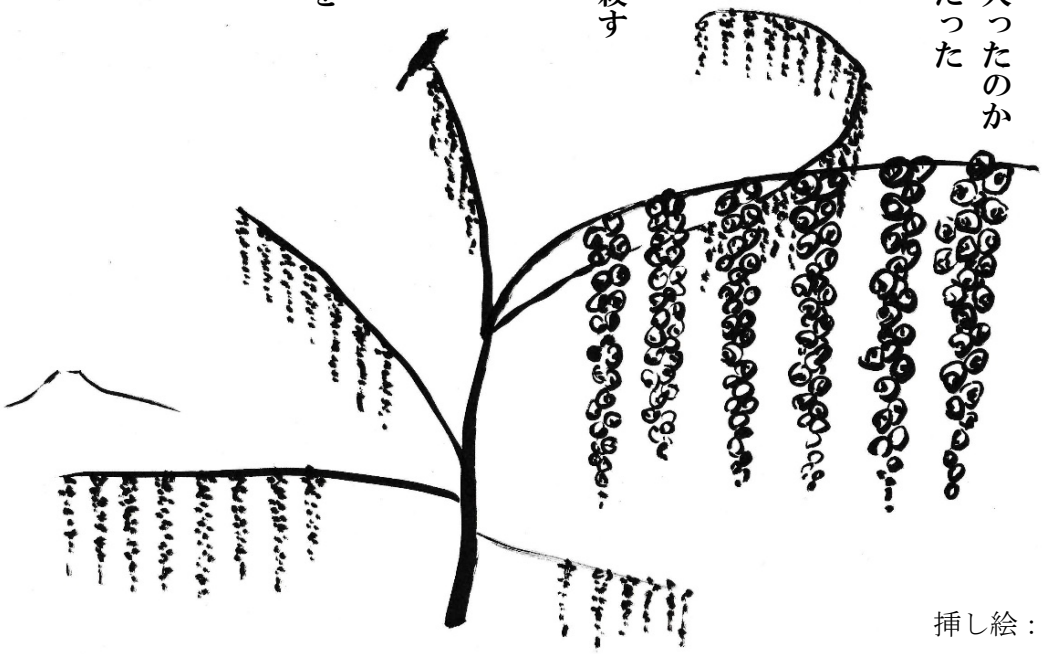
鳥の観察会
朝早くには色々な種類が見られたという

私が着いたころには
もう朝ご飯を終えて休憩タイムに入ったのか
顔を見せてくれた鳥たちはわずかだった

オオバン
カワセミ！
ウグイスは地鳴きの声だけ
それから、ええと、、、

枯葉が降りかかった藪の前で息を殺す
じいっと

鳥を待つ
早すぎる春の中
鳥も待つ
人間たちが諦めて行ってしまうのを



挿し絵：「小網代の春」伸

ウグイスの道

中井 由実

ゆっくり歩いていきましょうね
長谷川造船から入る枯れ藪の道
しゃがみこんで小さな花を指さしていると

ホ～、ケキョ
ホー、ホケ
ホケキョ
ホー、ホケピョ

みんなみんなウグイス
姿の見えない所で
春の鳴き方を練習している

誰に合格点をあげようか？

まだ三月半ば
みごとな長鳴きが出来るようになった頃
また聴きに来るからね

第 33 回交流会　「相模湾から東京湾へ 三浦半島横断」

2022 年 12 且 3 日（日）
参加者 8 名

この日は穏やかな晴れだった。
小網代湾を見渡す丘の上から、途中地衣類をみながら楽しく急坂を降りる。

湾の風景を楽しんだあといよいよ小網代の森への道をすすんでゆく。
毎年この時期の小網代は紅葉がすばらしいのだが、今年はハゼの葉などあざやかな紅の葉が落ちてしまい、少しものたりない状況、でも、ボードウォークの横にはジュズダマがたくさん実っている。こんなに増えているなんて、なにかあったの？
源流の階段を上って小網代の森をぬけ、ベイシアでお弁当のあとはいよいよ東京湾側へなだらかな山越えとなる。
それからは穏やかな日差しの中、畑の中を右手はるかに東京湾を望みながらのんびり歩き。
まるで、鳥になって三浦半島の上を相模湾から東京湾へ大きな弧を描いて飛んでいるみたい。楽しい！
ついに三浦海岸の海に降りた。しばらく海で遊んで、バスで忘年会の会場へ！
穏やかな日差しの中のすてきな歩き旅。ひとりでも、また歩いてみたいコースだった。

記 鈴木カヲル　　写真 浪本晴美

10 時 20 分三崎口駅前集合、10 時 41 分の油壷温泉行バスに乗ります。小網代バス停から小網代漁港への道は絶好の地衣類観察スポット。スタッフ N さん作成の資料を見ながら、地衣類を観察します。ルーペで覗く地衣類は、まるで小さな森のよう。不思議で面白い景色です。
小網代漁港ではオオバンとカルガモがお出迎え、ここから森に入るまでの道も見どころ満載です。細枝に絡んだ野生のカボチャの実発見❓
森に入る前にトイレタイム。
アカテガニのアパートにライトをあてて「いたいたカニさん」皆で覗き見。
宮の前入口を入ればヨシ、アシ、ガマの穂が見えてきます。エノキテラス近くでタコノアシを見つけ、赤い実を付けた姿がタコの足のように見える事からついた名前、絶滅危惧種である事も説明。
こあじろの森に増えてきたジュズダマの白色の実、スズメウリの白色の実、カラスウリの橙色の実、クサギのがくの赤紫色、青い実の色、ヤブミョウガの黒色の実、モフモフのガマの穂の茶色、初冬の森は色とりどりでした。
お昼を告げるチャイム音が鳴っています、それと鳥の鳴き声、声は聴こえるけれども姿が見えない、残念です。
水道広場まで来ました。引橋にあるベイシア（スーパー）で昼食時間、後続の人達と合流します。
昼食後、東京湾の見える役場下バス停へ向けて歩き始めます。

消防署の前の信号を渡ると、そこには姉妹都市オーストラリアから贈られたナンヨウスギが大きく育っていました、大きなスギの実が落ちていてビックリ。
歩いて行くと、引橋の地名の由来が書かれた掲示板を見つけて谷をのぞく。
道は三浦海岸公園墓地方面へ進み、右下にはミカン畑が広がり、見晴らしが良くなります。
右方面には金田漁港、そして剱崎方面も、対岸は千葉の山々、景色を楽しみながら進んでいきます。
畑の作物を見ると何を育てているのかな？会員の K さんが詳しく説明してくれました。K さんは仕事で詳しくなったそうです。三浦でも色々な野菜を育てている農家もあることを知りました。
いつの間にか道は下り坂、農家の庭の道路際にヤシが茂っています、右側の崖にはツワブキの花が咲いていました。
役場下バス停に到着、後続の人達を待つ間、浜辺へ行き波の音を聞きながら貝拾い。
皆が集合して写真撮影しました。
バスに乗り込んで、縁の会参加者と三浦海岸駅へ帰る方々と分かれて、解散となりました。
天気に恵まれて風も優しくて、皆で歩き通すことが出来たのが嬉しいです。お疲れ様でした。

記 三本保子　写真 三本保子 浪本晴美

相模湾から東京湾へ、のんびり三浦半島横断

三浦半島を東西に切った時どこが一番細いでしょうか？

三浦半島は付け根が太く、横須賀市から三浦市に入るところがくびれ、南端でまた太くなります。一万分の一の地図で確認すると、三浦市の入江から三浦海岸までが 3.2cm、小網代湾から金田湾までが 2.8cm でした。（1cm＝1km でいいみたい）昭和年代に入江は県道から海まで大幅に埋め立てられたけど、小網代湾は埋め立てられず海がぐっと内陸に入り込んでいるので一番細いのです。

今回歩くのはこの一番細い所で、小網代湾から森を抜けて引橋の交差点、昼食後引橋から金田湾へ、谷と尾根を歩くコースです。

初冬の穏やかな天気の中、三崎口に 10 時 20 分集合し油壺温泉行きバス乗車、小網代のバス停でおり小網代湾へ。N さんが交流会資料として「小網代の地衣類」を配ってくださり、塀や崖の地衣類を観

察しながら小網代湾へ。こんな時便利なのは 100 均の虫眼鏡、ジョウゴゴケモドキの繊細な杯は肉眼ではなかなか見えません。

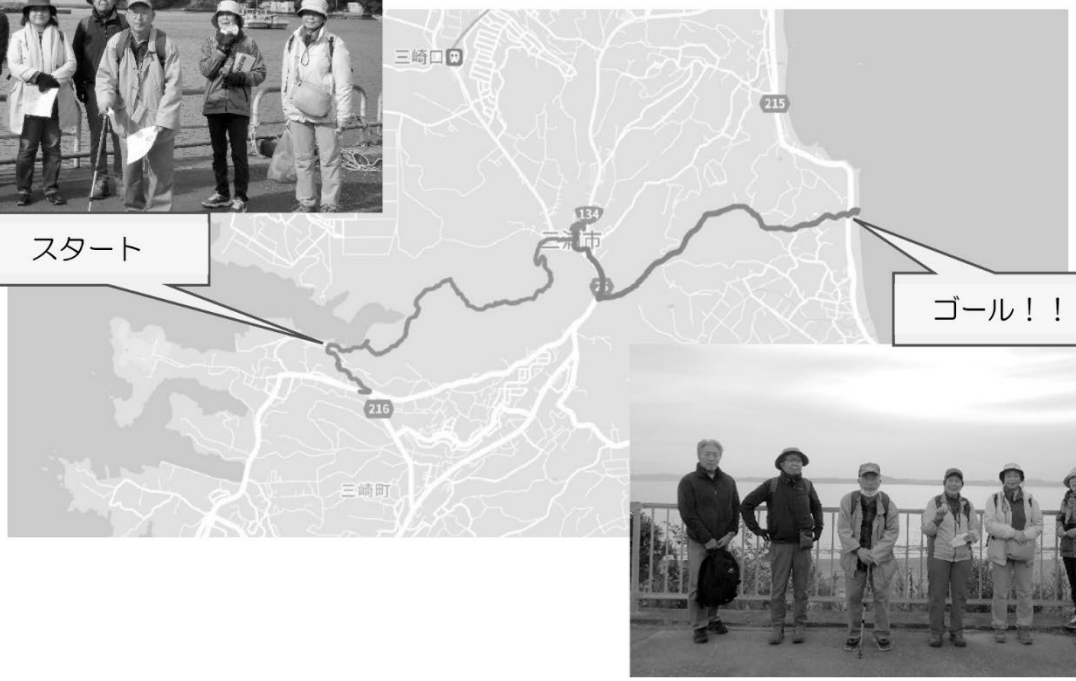
小網代の湿地では葦の白い綿毛が風に揺れていました（ススキではありませんよ）。ジュズダマの白い実がツヤツヤしていました。子供の頃見たジュズダマは白くなると枯れて艶もなかったのに？と思い出したら、通りがかったボランティアさんが小網代のジュズダマは白くなっても艶があるんですよと教えてくれました。大好きな鳥を探しながら登って行くとクサギの瑠璃色の実も食べられて無くなっていました。

水道広場からベイシアのイートインで昼食、豪勢なお弁当を食べた人もいましたね。ゆっくり登ってきた人たちも合流ししっかりと昼休み。

午後は県道を三崎方面に少し歩いて自動車修理工場脇から横道に入りますが、ここにお地蔵さんと引橋の碑があります。戦国時代油壷にあった荒井城の出入り口で、可動式の橋を架け戦のときは橋を引いて渡れないようにしたそうです。小網代の谷も反対側の谷もかなり深くて簡単には渡れないので天然の堀ですね。道を進むと畑が見えてきました。葉の形でカブやダイコン、カリフラワーやブロッコリーの区別がつきますよ等、雑談をしながら行くとみかん園がありました。金田側の谷にむけて大きく開けていて、東京湾や千葉県の館山方面よく見えました。もう少し歩くと無人の直売所、ダイコンなどの野菜の中にカボチャのような立派なサツマイモがあり、まだ歩くからと購入は断念。ダラダラと下りて行くと畑の中に古墳のような物が見えてきました。道の北側の谷、蛭田は古墳時代から開けた所だそうで古墳群もあります。本日は道なりに海へ、修道院の入り口をすぎて役場下のバス停につきました。バスの時間まで少し余裕があったので、海岸に下りて貝殻探し。マテ貝と蛤より大きな白い貝を拾いました。時間になりバスに乗車、途中で緑の会に参加する人達と別れ三浦海岸駅へ向かいました。お疲れ様でした。

今回行かなかった金田の谷も、山の神やかっぱの証文伝説のお寺、ランの品種改良をしている農家などぶらぶら歩きに良い所です。ぜひぜひ歩きに行きましょう。

記 A.K　　写真 H.N



サロン小網代　「富士山は活火山です」

2023．3．1　　祖父川精治

かながわ県のたより　令和5（2023）年2月号　NO815号。
もし富士山が噴火したら、県内全域に降灰、地域によっては溶岩流が到達する可能性があります。普段から防災用具などを備えておくとともに、「富士山ハザードマップ」・「富士山火山防災マップ」をチェックしておくことが大切です。県内に溶岩が到着する可能性は火口位置がわかってから明確になります。溶岩流について、噴火前に過度に心配する必要はありません。問合わせは県危機管理防災課

神奈川県では、随分思い切った大胆な富士山噴火の広報をカラー版で報道をしたものと感心した。

数年前、神奈川県歴史博物館では、特別展として「古文書が語る富士宝永噴火」、神奈川県域の被害と復興の展示資料を公開展示したことがある。資料から主な点を抜粋すると以下のとおりである。

今から僅か300年前の出来事である。

宝永4丁猪年（1707）

10 月 28 日　東海や南海地震が発生。
11 月 23 日　馬の刻 「12 時」 富士山が雷のように鳴った。
12 月　3 日　頃から富士山周辺地域で小地震群発。
15 日　富士山山麓周辺では群発小地震、江戸から名古屋まで有感。
16 日　午前 10 時頃より強震のあと富士山中腹から大噴火。噴煙は偏西風に流されて、灰白色の灰が風下方の江戸まで届いた。
火災も発生。噴火中は絶え間なく火山雷が発生、地震群発。
周辺住民に大きな恐怖を与える
17 日　朝頃小康状態、後再度の大噴火、再び江戸から伊勢まで降灰
そして強震が続く。
小田原、江の島では降砂が大雨のように続く。
18 日　朝、噴火は小康状態となるが再度大噴火、江戸から噴火が遠望できる。
幕府の調査隊が小田原へ。
19 日　噴火活動が衰えてきた。江戸、小田原で終日降砂、噴煙が遠望。
20 日　朝、4 度目の小康状態、江戸から噴火が目撃、降灰。
21 日　から 24 日、江戸では時々降灰。噴煙を望む
25 日　噴火が再び激しくなる。江戸では噴煙が空を覆い、日差し遮る。
26 日　江戸では終日、噴煙が日差しを遮る。

富士山俯瞰図　左下に宝永山噴火口

宝永 5 年（1708）

1 月 1 日　未明の噴火を最後に停止し、富士山静まり新噴火口を宝永山と命名する。

私の富士登山は吉田口から3回。須走口から1回、内8月25日に須走口五合目1980メートルからは日帰り登山をしている。往復8時間。他に、5回位山仲間達と積雪のある秋や春に途中まで登っている。

富士山頂上に立つ。富士山浅間大社奥宮があり記念として刻印のある木札を購入する。そして、中心へ向かい大内院と呼ばれる巨大な噴火口を覗く。最高点の剣ヶ峰3776メートルへ向かっての急登がキツイ。一度だけ頂上火口縁をぐるり巡り歩いたことがある。もう一つ頂上には小さな別の噴火口があり小内院という。当時、地熱があり触れると熱かった地点があった。今は消えてしまったという。所要は頂上火口を見ながらぐるり一周1時間。

中腹に巨大な噴火口のある宝永山1693メートルへ山友達と3回登っている。富士宮口より登山バスで上り、6合目から水平歩道を宝永山へ向かう。火口縁から一度、300年前に大爆発した恐ろしい宝永噴火口底へ下り、ザラザラした歩き難い火口壁を急登するのである。そして御殿場口へ向かって急斜面の長大な砂走りを駆下った。

サロン小網代　「お試し森歩きの記」

2023.3.12　宮本美織

私事だが、未破裂脳動脈瘤を未破裂の状態で保たれるように入院して、バイパス手術と血管内措置を施して貰った。予想に反して筋力の弱りがあり、杖突歩行となった。森の完全歩行はまだ無理の状態になった。そんな私にNさんからお試し森歩きのお誘いがあったので、漁港からエノキテラスまで往復と考えて出かけて見た。

三崎口駅から漁港まで、A.Mさんの車に同乗したのは、M.M、H.N、Y.M、Y.N の四人。

ペルルカフェでカラス山椒の蜜だという小網代蜂蜜をゲットし、いちごソフトを頼む。小パール隊への寄付金つきの真珠のペンダントトップが珍しく、みんなが求める。今年の地元の小学校の児童が核入れをして育ったアコヤガイの飾りを身につけ卒業するという。良い思い出になるに違いない。

ペルルカフェの前には彼岸桜と思しきサクラが満開だった。海蔵寺の下にある野仏さんをなつかしく見て、白鬚神社守のＳさんの家のまえを通り、小網代の森へ続く道を行く。

アカタテハがイラクサの上をひらひら動く。

冬越しの　やつれもみせず　アカタテハ　我らが道を　さきまわりせり

道の両側は笹や幼木が密に生えていても、まだ冬枯れの様相。藪から色々なバリエーションのウグイスが鳴いていました。さしずめ「ウグイス街道」外国の女性の二人連れにウグイスは英語で何というのか聞いてみる。スマホで調べて親切に教えてくれる。ナイチンゲールではないのにちょっとビックリでした。因みに彼女たちはドイツ人でした。ひっきりなしにいろいろなバージョンのウグイスの鳴き声が聞こえてくる。オスがメスを誘ってさえずっているのだそうだ。

ウグイスの　鳴き声聞いてランク付け　楽器に例えて　真似して笑う

カニ団地で、崖の穴にアカテガニがいるかスマホの明かりで確かめる。残念ながらスマホ初心者の宮本には明かりのつけかたが分らない。安心して出発。あわて床屋の歌が出る。

ゆるい階段の先にニワトコの花の蕾がブロッコリー状についている。若いミズキの新芽も開いている。

湿原へおりると東側の崖横いっぱいに生えている山椿の木々に赤い花がまっさかり。

落花（おちばな）で　森敷き詰めよ　山椿

ハマダイコンの花で区画を作って　蕗の取り放題という商売は如何などと､軽口が出てくる｡いずれ、蕗で地面は覆われるだろう。これは移植したに違いない。

エノキテラスに座って、H.N さんに購入してきてもらったお赤飯弁当で贈呈の一コマ

退院を　互いに祝い　贈り合う　赤飯弁当　エノキのテラス

ここにいない方からの差し入れでお菓子も果物も、贅沢な昼ご飯だった。

カラスの大群が山から空へ慌ただしく飛び立たせているのは何か分らないまま帰路へ。

電話する前にお迎えにきてくれた A.M さんを交えて一層楽しい帰路に。

キケマンは　お昼の間に　花ひらきけり

森歩き　伴走者つき　贅沢　究む

4 月 29 日の交流会での完全復帰を目指してリハビリ歩きを実行中。楽しかったこのお試し歩きの小網代の春を主治医の先生あてに葉書に書いてみようっと。

小網代の森NEWS

スタッフの活動

2022.11.27（日）　通信第 34 号印刷（於 横須賀市立市民活動サポートセンター）
2022.12.03（土）　第 33 回交流会「相模湾から東京湾へ 三浦半島横断」
　　縁の会　三浦海岸伊豆島
2022.12.17（土）　小網代の歴史をもっと知ろう編集会議（リモート）
2023.01.02（月）　第 34 回交流会お知らせハガキ投函
2023.01.16（月）　第 34 回交流会下見
2023.01.26（木）　スタッフ会議（リモート）
2023.01.29（日）　スタッフ会議（リモート）
2023.02.05（日）　第 34 回交流会「鳥いっぱいの谷と海 2023!」
2023.02.08（水）　遠足打ち合わせ（赤星直忠博士文化財資料館）
2023.02.11（土）　スタッフ会議（リモート）
2023.02.24（金）　遠足のお知らせハガキ投函
2023.02.26（日）　スタッフ会議（リモート）
2023.02.28（火）　スタッフ会議（リモート）
2023.03.11（土）　スタッフ研修 三浦の海岸歩き
2023.03.12（日）　光の丘水辺公園遠足下見
2023.03.18（土）　スタッフ会議（リモート）

遠足 光の丘水辺公園 「ニリンソウ鑑賞会」のお知らせ

光の丘水辺公園へ、春の妖精ニリンソウの鑑賞に参りましょう。今年のニリンソウ特別公開は 3 月 25 日（土）から 4 月 2 日（日）、時間は午前 10 時から午後 3 時です。もしお待ち合わせで会えなくても、早く着き過ぎてしまっても大丈夫、ニリンソウ観察地の入り口から水辺公園友の会のベテランが案内してくださいます。

昼食後、ご希望のある方はかろうと山遺跡（光の丘水辺公園から徒歩約 20 分の山の上にある古墳跡）へハイキングをご一緒しましょう。YRP 野比駅まで、のどかな畑と川沿いの道を徒歩で帰ることもできます。

開　催　日　：2023 年 4 月 2 日（日）　荒天の場合は中止します
お待ち合わせ：10:00 京急 YRP 野比駅集合、10:25 発バス乗車、YRP センター下車
*昼食後、希望者はかろうと山遺跡までハイキング

スタッフ研修「変形菌を見つけよう in 光の丘水辺公園」のお知らせ

光の丘水辺公園へ、変形菌を学びにいきましょう。スタッフ研修ですが、興味をお持ちの方はご参加が可能ですので、ご連絡ください。

日　　時　　：2023 年 4 月 10 日（月）
　　（YRP 野比駅からバスを利用する場合は 9：47 発 9：57YRP センター着）
お待ち合わせ：10:00 光の丘水辺公園管理事務所前集合
持　ち　物　：**長靴**、虫眼鏡、お弁当、飲み物
連　絡　先　：メール info@mori-club.com（高橋）
　　電 話　046-889-0067（仲澤）
*「変形菌を見つけよう in 水辺公園」はこれから月 1 回程度実施する予定です。

遠足　赤星直忠博士文化財資料館のお知らせ

三浦半島の遺跡を調査し膨大な記録を残した赤星直忠博士（1902-1991）の採集された文化財遺物並びに諸文献を保管されています。今回特別に、釼持輝久館長と宇内建設さんにご協力いただき、見学だけでなく詳しいお話を伺えることになりました。

洞窟遺跡に心躍る方、小網代周辺の遺跡が知りたい方必聴！

開 催 日 時 ：2023 年 4 月 16 日（日） 10：00～12：00
場　　所　　：宇内建設ビル 3 階（横須賀市長坂 2-11-11）
　　バス停佐島入口から徒歩 2 分
お待ち合わせ：JR 逗子駅 9：00　9：12 発長井行バス乗車
　　（逗子・葉山駅北口から 9：15 発バスに途中乗車も可）
　　または 9：00 三崎口駅 9：22 発横須賀市民病院行乗車、市民病院下車徒歩 15 分
持　ち　物　：**上履き**、マスク、飲み物、午後も参加の場合はお弁当
*終了後、希望者は天神島臨海自然教育園に移動（徒歩約 30 分）し昼食、見学

第 35 回交流会「春は草花、木の花も」のお知らせ

森を遠く思うだけだった 3 年間を全て忘れて、ひたすら森の空気と植物を満喫しましょう！
それでも、コロナ対策（多少）はお忘れ無く

開　催　日　：2023 年 4 月 29 日（土・昭和の日）
お待ち合わせ：三崎口駅前　10:00
解　　散　　：14：00 頃エノキテラス
持　ち　物　；昼食、飲み物

スタッフ研修　海岸歩き 毘沙門から宮川まで

良く知っているようで、新しい発見に満ち溢れた、三浦半島の海岸線。ちょっとハードな道もありますので、十分注意深く歩きたいと思います。スタッフだけで続けてきた海岸歩きに、今回初めて皆さまをお誘いします。ご興味をお持ちの方は下記連絡先までご連絡ください。

開　催　日　：2023 年 5 月 20 日（土）雨天中止の場合 21 日（日）に順延
お待ち合わせ：三浦海岸駅　9：40
　　ご連絡いただいた方には、別途詳細をお知らせします
連　絡　先　：担当・松原
　　メール　post@mori-club.com
　　電　話　090-6016-0513（松原）

- こあじろの森くらぶイベントにご参加いただけるのは、会員さまご本人とそのご家族、ご友人です。保険はありませんので、自己責任でお願いいたします。

こあじろの森くらぶ通信　No.35
2023年3月26日発行

こあじろの森くらぶ　Koajiro Woods Club
所在地：〒238-0101　三浦市南下浦町上宮田1528-75
連絡先：info@mori-club.com（高橋）
　　046-889-0067（仲澤）
URL　：http://www.mori-club.com
年会費：1000 円（7 月～6 月 入会金不要）
郵便振替　こあじろの森くらぶ　00290-6-137203